

マスクで口元が見えない今だからこそ、“聞き直し”がスタンダードな日常へ

～福岡市を拠点に活動する難聴の子を持つ家族会「そらいろ」第14回定例会報告～

福岡市を拠点に活動を行う難聴の子を持つ家族会そらいろ（福岡市、会長：岩尾至和、以下「そらいろ」）は、2020年6月21日（日）に、「コロナ禍における難聴児の環境整備を考える」をテーマとした定例会を開催いたしました。

そらいろは「難聴の子どもが、社会でうまくコミュニケーションをとれるように、また、難聴の子どものいる家族が、不安を取り除いて、安心して温かい家族関係を作れるように」を目的に掲げ、定例会を中心とした活動を展開してまいりました。難聴を理解する「学び」、難聴児が楽しめるような「娯楽」、難聴児が過ごしやすい環境づくりを目指す「サポート」の3軸で活動を行っております。

今回で14回目となる定例会は「コロナ禍における難聴児の環境整備を考える」をテーマとし、7家族が参加。新型コロナウイルスの感染防止に欠かせないマスクが意志疎通の壁になっている現状を踏まえ、「コロナウイルスについての正しい知識」「マスク社会への対応策」などをさまざまな視点から学びました。

参加者からは「感染リスクを過剰に恐れていたことに気づけた」という一方で「マスクで口元が見え辛い今だからこそ、何回聞き直しても大丈夫という雰囲気づくりを目指したい」「ねえねえ、と目が合ってから話し始める習慣づけの良い機会」といった声も上がりました。その後の質疑応答・フリートークでも「このような状況下だからこそ、難聴児のコミュニケーションに関する理解促進の土台を築くべき」といったポジティブな意見が目立ちました。

次回定例会は8月を予定。当家族会は、今後も難聴児の子育てをしやすい環境づくりを目指した活動を展開してまいります。



【第14回定例会の概要】

日時：2020年6月21日（日）13時30分～15時30分

会場：福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）

参加者：当家族会に所属する7家族、メディア関係者

内容：コロナ禍における難聴児の環境整備を考える

【本件に関するお問い合わせ先】

難聴の子を持つ家族会 そらいろ <https://sorairofukuoka.jimdofree.com/>

担当：岩尾（いわお） e-mail：yukikazu_iw203@blue.plala.or.jp